

2016年

携帯サイトへGo!→
携帯で教室便りが見られます



公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 186-61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者：新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

教室だより 11月号

〇〇の秋

「読書の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」。このように、秋はさまざまなことに適した季節のようです。

「読書の秋」は「灯火親しむべし」という古代中国の韓愈（かんゆ）という文人の詩を夏目漱石が『三四郎』という小説の中で取り上げたことにより広まったと言われています。人が集中するのに最適な気温は18度前後だそうですので、気候的にも秋は読書に適していると言えます。『芸術の秋』という表現も同じ理由からのようです。

「スポーツの秋」といわれるようになったきっかけは、東京オリンピックです。昭和39年（1964年）、開会式が行われた10月10日が「体育の日」として国民の祝日となり、平成12年（2000年）からは「ハッピーマンデー制度」の適用により、10月の第2月曜日となっています。

「食欲の秋」という表現は、秋がさまざまな農作物の収穫の時期（「実りの秋」とも言いますね）で、いわゆる旬の食べ物がたくさん出回り、美味しいものをたくさん食べることができるということです。

秋は気候がよく、いろいろなことに挑戦しやすい季節でもあると思います。

みなさん、それぞれの充実した「秋」を楽しんでください。

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“発達度合いが大きい幼児期を大切に”

人間の知能や能力が伸びる時期はそれぞれの子どもによってまちまちですが、知能の発達ということ言えば、人間の一生を通じて幼児期ほどその度合いが大きい時期はないと言えます。ですから、すぐれた可能性や、めぐまれた素質をもっている幼児期の子どもに対し、それを早く発見し能力を伸ばすチャンスや有効な方法を与えてあげることが大切にしてほしいものです。子どもの可能性を信じ、それを最大限に伸ばしてあげることが、親の、そして周りの大人の務めではないでしょうか。

世の中には「早期教育は弊害を生むのではないか」と心配する人もいますが、「押しつけ」や、子どもの興味や能力に「ちょうど」でない詰め込み主義的な教育でないかぎり、早い時期からの知的教育は子どもの将来のためになることが、多くの公文式の幼児指導の事例から明らかになってきています。

11月無料体験学習のご案内

保護者の皆様へ

平素は公文式学習にご理解・ご協力を賜り、ありがとうございます。さて、公文式教室では、下記の通り「11月無料体験学習」を実施いたします。公文式学習の大きな目的は自分から学習する力を育てること。「自分でできた！」の体験は子どもたちに大きな自信を与えてくれます。新しい教科にチャレンジして、ぜひ得意な教科を増やしてください。

入会を検討されているご兄弟・姉妹の方がいらっしゃいましたら、ぜひ無料体験学習にご参加ください。

また、お知り合いの方へ公文式学習をご紹介いただければ幸いです。ともに学習する存在は子どもたちにとって大きな励みとなります。

★11月無料体験学習のご案内★

学習期間：11月16日（水）～11月30日（水）

期間中、2週間で計4回、公文式学習を体験していただけます。

費用は無料ですので、お気軽にご参加ください。

様

2016年 11月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10 <small>文化の日</small>	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23 <small>勤労感謝の日</small>	24	25	26
27	28	29	30			

本市場教室日□

横割教室日△

ゆき子の一言コラム

～お子さんの成績アップのために～

焦らない、焦らせない

さあ、子どもに勉強させようと机に向かわせたはいいが、なかなか勉強が始まらない。筆箱を開けて、「どの鉛筆を使おうか」、と迷っている。

「消しゴムはどれがいいかな」、などと長い時間かけて選んでいる…。

そんな姿を見ると、たいていの親や大人は、イライラして、

「早く始めなさい！ どれだっていいじゃない！」

でも、大人にとってはどうでもよいことでも、子どもにとってはとても大事な問題なのです。

「鉛筆を選ぶ」という、子どもなりの喜びの時間に浸っているからです。

大人は、時間がかかるとつついいてつき、焦ってしまいます。

しかし、そんな時こそ、落ち着いてじっくりと子どもに接して下さい。

でも、「今日はこれにしたら？」

なんて、声をかけても、「こっちがいい…」と意見は合わないでしょう。

こんなときこそ何かしらの会話をし、子どもとのスキンシップをはかるのもいいでしょう。

「今度からは勉強始める前に、選んでおこうね…」

そんなひと言でも子どもは、優しさを感じるものです。

問題を解きはじめてみると、大人が間違いに気づきました。

大人はたいていせっかちですから、つつい責めたてます。

「違うよ。これ…。違うでしょ。直して。ほら、直して！ 早く早く…」

こんな感じで責め立てます。そんなとき、子どもは訳がわからなくなっているのです。

子どもは、一瞬、何が起こったのかすら分からないときもあります。予期せぬ事態に、対応できなくなっているのです。

こうなったら、親や大人が何を言っても、話は通じません。

大人は、「この答えは間違っているから、もう一度消してやり直させなければいけない…」とっていますが、子どもは、「えっ、なに？ 何が起こったの？」とうろたえてしまっているのです。

大人は焦ってはいけません。落ち着いて、ゆったりとした気持ちで、子どもの勉強を見守ってみましょう。

大人や親の焦りの気持ちは、子どもにも伝わってゆきます。

状況を把握した子どもは、ただただ焦るようになるのです。

焦った状態では勉強はできません。集中できません。

理解もできなければ、やり直すことすらできないのです。

原因は親が焦ったことにあります。

たった一つ、「なぜ、こんな問題で間違えてしまうの…」という思いのために。

たった一つ、「こんなんびりやっていたら、何時間かかっても宿題が終わらない」という思いのために。

たった一つ、「どうしてこんなにだらだらしているの…」という思いのために…。

子どもに勉強させる際に、焦りは禁物です…。

お休みのときは、電話でも携帯メールでも結構ですので連絡をお願いします。

11月分の会費引き落としは10月28日(金)です。よろしくお願いいたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

お迎え電話を教室からする子には必ず電話代10円を持たせてください。